

錦織圭選手の引退に寄せて（その2）

喜多村啓子(旧姓 風呂)
松江北高 1980年卒、31期
(2026 年10月近況報告)

先月、ジャパンオープンテニスのボランティアをすることをご報告しましたが、今回はその活動についてお知らせします。

私は東京オリンピックでボランティアをしましたが、その後ボランティアからは遠ざかっていました。退職のタイミングで、錦織圭選手の最終試合になる大会の募集があり、何らかの形で関われたらと応募しました。

応募数が非常に多く、確率1/2の抽選でしたが、運よく当選しました。割り当てられた活動は予選1日を含む4日間です。



初日は緊張しました。予選には通常上位選手は出場しませんが、人気選手チチパスがエントリーミスで予選から出場していました。私の仕事はチケットチェック。指定席のお客様のチケットを確認します。普通スポーツボランティアは試合を見ることは禁止されますが、テニスではプレー中観客の移動ができます。

せん。ボランティアは試合の進行を見ながらタイミングを計って活動します。有明コロシアムのチケットチェックの位置はコートของすぐ近くです。エンド側に配置され、こちらに向かってくる迫力のショットを見ることができました。

そして10月1日錦織選手の登場。すごい観客数です。15:30の担当で、第2試合の錦織選手の試合は難しいと思いましたが、第1試合が長引き、第2セットから会場に入りました。6年ぶりに直接見る錦織選手。その姿を目に焼き付けようとしたが、チェックはおろそかにできませんし、これが最後の試合と思うと、心穏やかではいられませんでした。

健闘していましたが、相手はシード2位の選手です。1ポイントでも、1打でも長くとの願いも虚しく、現役最後の時を迎え、試合後に簡単なセレモニーが行われました。ボランティアはコートに背を向けて立っていましたが、錦織選手の言葉に涙がにじんできました。ボランティアが泣いてはいけなないと必死にこらえながら、この場に立ち会えた幸運をかみしめました。

その後も活動は続き、アルカラス選手等の試合にも立ち会いました。ボランティアの仲間はオリンピックを体験した人が多く、他の大会と掛持ちする人もいて、話していて楽しかったです。来年も応募したいと思いますし、他のボランティアにも挑戦したいと思います。